

躍進

新琴似中学校
学校だより

令和7年度

11月号（第8号）

令和7年10月31日

3学年の様子（3学年主任より）

中学校最後の学校祭が終わった。学校全体で盛り上がり、楽しみ燃えるような大きい行事は、もうない。部活動もない。卒業は近いがその前に受験があって、大小様々な不安が心の隅に巣食う。若き有り余るエネルギーを受験勉強に注ぎ込むことは難しく、つつい遊びに熱中したり、人間関係を崩してしまったり。自分自身の将来を思い描こうとしても、なかなかうまくいかない。今の TEAM3 学年の姿を見ていると、自分が中学3年生のときもそんな感じだったかもなあと、ぼんやりとした懐かしさを感じる。受験勉強の苦しみは、はっきりと思い出される。

義務教育を修了して現代社会で生きていくとき、学歴はどのくらい重要なのだろう。夢や目標、なつてみたい職業があつて、それを叶えるために学歴が必要だというなら、それはわかる。しかし「選択肢が増えそうだから」「ないよりはある方がいいから」等の理由で学歴を追い求めるのはどうだろう。以前、学年 PTA で『高学歴難民』という言葉を紹介したことがあつたが、現代社会は、学歴さえあればなんとかなるようには出来ていない。では学歴以外の何が必要だということのか。

学校祭に向けた準備活動の中で、アイデアを出すこと、リーダーシップをとること、難しくても諦めずに練習を続けること、新たな人間関係を形成すること……多くの生徒が様々なことに挑戦する姿が見られた。それらを通して身につけた力が直接学歴に影響を及ぼすことはないが、学歴以上の影響を人生に及ぼすことはあるだろう。そう考えると普段の学校生活の中で、多少窮屈だと感じながらもルールや時間を守ったり、思春期ならではの葛藤を抱えながらも平和な集団生活を維持できるよう努力したりすることには、大いに意味があると思われる。

TEAM3 学年全員の幸せを願っている。だからどうか、学歴のための勉強を卒業してほしい。学ぶことで学力がつくのはとても尊いことだが、試験に合格するためだけの学びは、つらくて虚しい。合格するかどうかは相手が決めること。そこにとらわれすぎると、自分の人生を自分で動かすことが出来なくなってしまう。

学ぶことで「苦手なことにも粘り強く挑戦する力」「目標へ向かって自分の手で道を切り拓く力」「新たなことを知り、人生に潤いを与える力」などを身につけることができる。学びは、国数社理英音美技家保体の教科学習だけではない。人間関係やスポーツ、芸術、ゲームだって、全てが学びなのだ。それらをわかつた上で、自分自身のこれからの人生を考えて、何をどう学ぶかを選択しようとするとき、もはや合格するかどうかは問題ではなくなる。合格は、結果としてあとからついてくるオマケのようなものだ。合格そのものが目的ではない。場合によっては「不合格だった」という経験が、人生の中で大きな学びになることだってあり得る。

苦しいことから逃げて刹那的な楽しさを楽しむのではなく、本当に大切なことを見失つたまま盲目的に苦しみ続けるのでもなく、考えることを放棄してただ流れに身を任せるのでもなく、自分で納得のいく判断を、毎日の小さな判断を積み重ねていくことで、きっと幸せに近づくことができる。

3 学年の教育をいつもご家庭から支えてくださり、ありがとうございます。私たち教師陣も、大人として恥ずかしくない背中を子どもたちに見せられるよう、精進してまいります。残り約4ヶ月間となつてしまいましたが、引き続きよろしく願いいたします。



新成祭の思い出作文

「これからに向けて」(1年生)



私は開祭式部門で活動しました。開祭式部門は作品を作ったり、演技をしたり、踊ったりする部門ではありません。それでも入りたい動機は先輩と交流したかったからです。活動中は先輩のアドバイスをもらってやり遂げることができました。私は今まで単元テストや部活動で「人間はできないことがあってもしょうがない」や「すべて完璧でなくても大丈夫だ」と思うことがよくあったのですが、「できないこと」をたくさんつくるのではなく、「できること」を増やしていけるようにしていきたいと思いました。私は来年、中学校最後の新成祭を、今年よりもたくさんの人との交流を大切に、全員の合唱への気持ちや部門別への思いを共有して「いいね!」のあふれるものにしたいと思います。

「新成祭を通して学んだこと、成長したこと、最後の新成祭に向けて」(2年生)

私は今回の新成祭を通して、「絶対に最後まであきらめずやり遂げる大切さ」を学びました。私は演劇部門で覚えるセリフや動きがたくさんあったのですが、毎回の練習で私は「家に帰ったらメモをして復習をしないと」と思うことが何回もあり、私は同じ部門の人や先生にアドバイスをもらってやり遂げることができました。私は今まで単元テストや部活動で「人間はできないことがあってもしょうがない」や「すべて完璧でなくても大丈夫だ」と思うことがよくあったのですが、「できないこと」をたくさんつくるのではなく、「できること」を増やしていけるようにしていきたいと思いました。私は来年、中学校最後の新成祭を、今年よりもたくさんの人との交流を大切に、全員の合唱への気持ちや部門別への思いを共有して「いいね!」のあふれるものにしたいと思います。

「おれはリーダーになる!」(3年生)

私は開祭式部門で全体の指揮をとっていた。今年初めて作られたこの部門。私はどのようにすればよいのかわからなかった。だが私の愉快的な仲間達は違った。「ここをこうしよう!」「こういうのはどう?」などと多く助けられた。その愉快的な仲間達のおかげで私は、いや私達は10分という短い時間をとっても充実した時間にすることができた。私はこの経験から考えたことがある。「物事を進める時に一番重要なことは強いリーダーがいることではない、それを支える仲間がいることだ」と。だから私は学級内や日常生活でもリーダーが頑張っているときにはしっかり支えてあげる、そんな人になりたい。また私はリーダーのような発言力も行動力もない。なので高校では自分が苦手な部分を鍛え新成祭の時のような頼りないリーダーではなく「絶対的なリーダー」になりたい。



「思い出に残る新成祭」(7組)

各学年でパフォーマンスや演劇を行い、思い出に残る楽しい新成祭となりました。最初に、開祭式「Let's パニック」を見ました。開祭式では、各学年が発表するパフォーマンスや演劇の映像を見ました。各学年がどんな発表をするのかがわかって、新成祭がより一層楽しみになりました。

2年演劇「星の王子様」では、王子様以外にも、様々な登場人物が活躍していて、見て面白かったです。また、大切なことを見つけることができました。次に、7組ステージ「ライトパフォーマンス〜ゆるくも熱いオタ芸〜」を発表しました。ステージの上に立ったとき、手足が少し震えましたが、会場の皆さんの熱い声援のおかげで練習の成果を発揮して発表することができました。1年演劇「赤ぞうきんちゃん 2025」では、「浦島太郎」や「桃太郎」などいろいろな物語が混ざっていて見て面白かったです。1年パフォーマンス「新中歌合戦」では、KPOPのダンスが揃っていてカッコ良かったです。2年パフォーマンス「プレイリスト」では、ユーロビートの「NIGHT OF FIRE」と「Daisuke」のダンスがカッコよくて、とても印象に残りました。3年パフォーマンス「SHINKOTONI MORE 映画泥棒」では、映画のダンスがカッコ良かったです。3年演劇「見直しの神」では、未来の姿を見て、ニートになっていたか、仕事が出来なかったか、将来失敗しないために今を努力することが大切だと思いました。中学校生活で最後の新成祭でしたが、記憶に残る楽しいものとなりました。